

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2018年12月17日

【2018年12月8日～2018年12月14日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは、対円では上昇、対米ドルでは下落しました。また、2年国債金利は低下しました。ブラジル国内の政治動向が年明けまで掴みにくいことから、ブラジル・レアルは外部要因に左右されながらレンジでの値動きが続きました。

週半ばにブラジル中央銀行から政策金利の発表があり、事前の市場予想通り6.5%で据え置かれました。前回会合に続き足元のインフレ水準が適切な水準にあることが述べられ、ブラジル・レアル高、金利低下の追い風となりました。しかし、週後半には中国の経済指標の弱含みを受け、新興国通貨全般が売られる中ブラジル・レアルも売られ、週を通して見ると対米ドルで小幅に下落しました。

経済指標に関しては10月の小売売上高の発表がありました。こちらは大統領選の不透明感を受け、消費者が大型支出を控えたことなどから前月比で低下しました。一方、前年比では市場予想こそ下回ったものの上昇しており、ブラジル経済の緩やかな回復が伺えます。

【2】今週の見通し

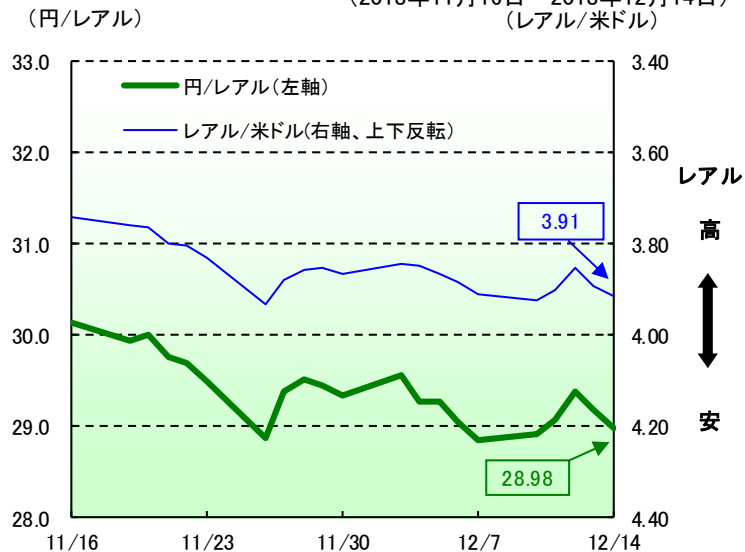
今週は、経済活動指数や経常収支などの経済指標の発表が予定されています。また、ブラジル中央銀行からはインフレ・レポートの発表が予定されています。

ブラジル・レアルについては、ブラジル国内の政治動向が年明けまで掴みにくいことから、短期においては外的ショックなどが無い限り、レンジ内での動きが続くと考えます。一方年明け以降は、ボルソナロ次期政権の掲げる年金改革の動向などに左右されると考えます。

ブラジル金利については、足元、インフレ懸念の後退から低下傾向にあります。インフレ懸念後退の要因として、大統領選の不透明感が払拭されたことでブラジル・レアルが反発したことや経済回復が緩やかであることが挙げられます。そのため、短期においては外的ショックなどによるブラジル・レアル安の進行などが無い限り、インフレ率は落ち着いたものとなり、金利の上昇圧力も低いと考えます。しかし、中長期ではブラジルの財政問題などによってインフレ・金利上昇圧力が高まる可能性があるため、ブラジル・レアル同様に年明け以降のボルソナロ新政権の動向、改革の行方がカギを握ると考えます。

【ブラジル・レアル 為替推移】

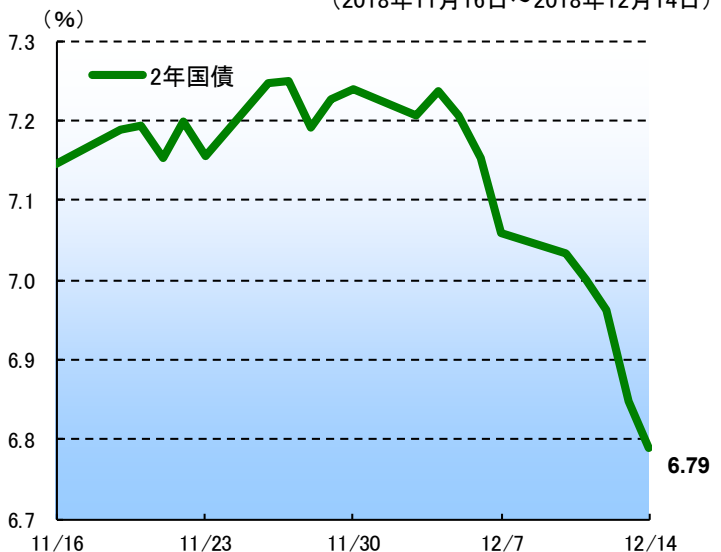
(2018年11月16日～2018年12月14日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】

(2018年11月16日～2018年12月14日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>